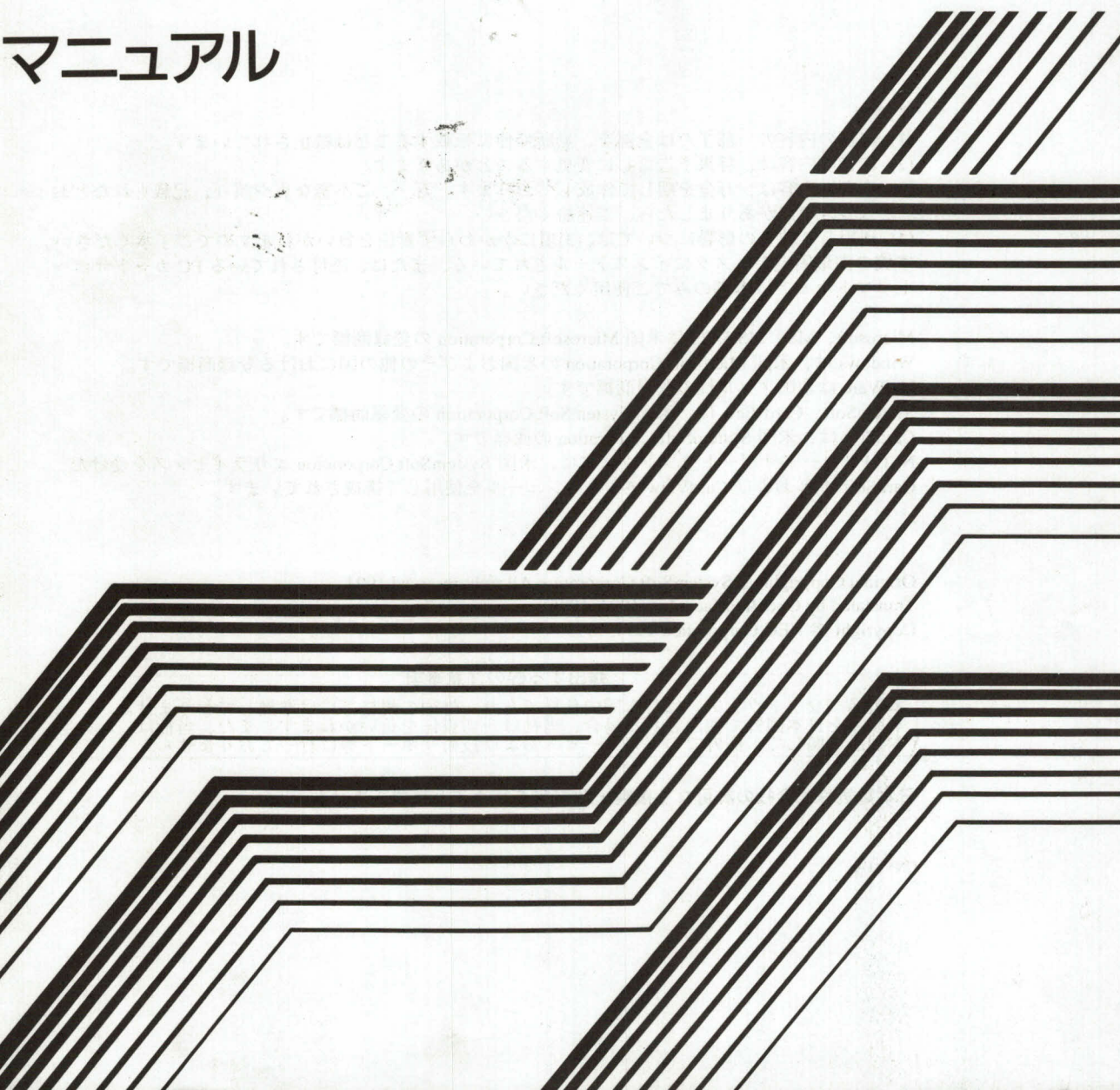


NECパーソナルコンピュータ
PC-9800シリーズ

NEC

PCカードサポートソフトウェア マニュアル



ご注意

- (1) 本書の内容の一部または全部を、無断で他に転載することは禁止されています。
- (2) 本書の内容は、将来予告なしに変更することがあります。
- (3) 本書の内容は、万全を期して作成しております。万一、ご不審な点や誤り、記載もれなどお気づきの点がありましたら、ご連絡ください。
- (4) 運用した結果の影響については、(3)項にかかわらず責任を負いかねますのでご了承ください。本機の内蔵固定ディスクにインストールされている、または、添付されている PC カードサポートソフトウェアは本機のみでご使用ください。

Microsoft、MS、MS-DOS は米国 Microsoft Corporation の登録商標です。

Windows は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。

NetWare は米国ノベル社の登録商標です。

SystemSoft、CardView は、米国 SystemSoft Corporation の登録商標です。

CardSoft は、米国 SystemSoft Corporation の商標です。

NEC PC カードサポートソフトウェアは、米国 SystemSoft Corporation よりライセンスを受けた CardSoft™/98 および CardView®/98 のモジュールを使用して構成されています。

Original Copyright © SystemSoft Corporation All right reserved 1994

Translated by OpenInterface, Inc. 1994, 1995

Copyright © NEC Corporation 1994, 1995

輸出する際の注意事項

本製品（ソフトウェア）は日本国内仕様であり、外国の規格等には準拠していません。本製品を日本国外で使用された場合、当社は一切責任を負いかねます。また、当社は本製品に関して、海外での保守サービスおよび技術サポート等は行っていません。

日本電気株式会社の許可なく複製・改変等を行うことはできません。

はじめに

本書の目的は PC カードを使うために追加された機能と PC カードの使い方を紹介することです。

PC カードを使うための機能は次の通りです。

- メモリカードや ATA カードをディスクと同様に扱うための機能を提供します。これによって、PC カードに格納されたプログラムやデータなどのファイルを利用することができます。
- I/O カードを扱うための機能を提供します。これによって、PC カードを通して様々な周辺装置との入出力を行うことができます。

ATA カードとは、固定ディスクと同様な機能を持った PC カードです。

- 他メーカー製 PC カードの使用の可否、および具体的な設定方法については、PC カードの提供元へご確認ください。
- PC カードサポートソフトウェアの最新情報が、テキストファイルとして以下の場所に格納されています。PC カードをお使いになる前に必ず参照してください。

README.PCC

本書の目的と構成

本書の目的は PC カードを使うために追加された機能を紹介することです。
本書は 5 つの章から構成されています。

- 第 1 章「PC カード概要」
第 1 章は、どのような PC カードを使うことができるかを説明しています。
- 第 2 章「PC カードサポートソフトウェアのインストール」
第 2 章は、PC カードを使うためのソフトウェアのインストール手順を説明しています。
- 第 3 章「PC カードの使い方」
第 3 章は、PC カードを使うためのユーティリティの操作方法を説明しています。
- 第 4 章「使用環境の表示／設定」
第 4 章は、PC カード設定ユーティリティについて説明しています。
- 第 5 章「こんなときは」
第 5 章は、PC カードを使う際の注意点などについて説明しています。

目次

はじめに

本書の目的と構成

第1章 PCカード概要	1
1.1 PCカードとは	1
1.1.1 PCカードについて	1
1.1.2 メモリカードの種類	1
1.1.3 I/Oカードの種類	2
1.1.4 PCカードサポートソフトウェア	2
第2章 PCカードサポートソフトウェアのインストール	4
2.1 インストール媒体の作成	4
2.2 MS-DOS へのインストール	5
2.2.1 固定ディスクまたは光ディスクへのインストール	5
2.3 Windows へのインストール	6
2.3.1 固定ディスクまたは光ディスクへのインストール	6
2.4 PCカードサポートソフトウェアの登録/削除	7
2.4.1 Windows 上での登録/削除	7
2.4.2 MS-DOS 上での登録/削除	7
2.5 プラグ&プレイ対応本体でご使用になる場合の補足事項	8
2.5.1 PCカードが使用できる資源を設定する	8
2.5.2 PCカードが使用するメモリウィンドウを拡張する	8
2.6 プラグ&プレイサポートソフトウェアの環境設定/解除	9
第3章 PCカードの使い方	10
3.1 SRAMカードを使う	10
3.1.1 MS-DOSによるフォーマット	10
3.1.2 Windowsによるフォーマット	11
3.2 フラッシュメモリカードを使う	12
3.2.1 フラッシュメモリカードのコピー	12
3.2.2 MS-DOSによるコピー	13
3.2.3 Windowsによるコピー	14
3.3 ATAカードを使う	15
3.3.1 MS-DOSによるフォーマット	15
3.4 I/Oカードを使う	16
3.4.1 I/Oカードの設定	16
3.4.2 設定方法について	16
第4章 使用環境の表示/設定	17
4.1 使用しているPCカードの情報を表示する	17
4.1.1 MS-DOSによる実行	17
4.1.2 Windowsによる実行	18
4.2 CardViewによる設定	21
4.2.1 NECモデムカード全体の設定(通信音の設定)	21
4.2.2 NECモデムカードの設定(個々のカードの設定)	22
4.2.3 ネットワークカードの設定	22
4.2.4 その他のカードの設定	23
4.2.5 カード種別ごとの通知の有無	23
4.2.6 カード挿抜などのイベント通知の有無	24

4.3	CardView のオプションとヘルプ	25
4.3.1	CardView のオプション	25
4.3.2	CardView のヘルプ	25
4.4	カード種別ごとの標準設定を作成する	26
4.4.1	NEC モデムカードの設定	28
4.4.2	モデムカードの設定	29
4.4.3	ネットワークカードの設定	29
4.4.4	ATA カードの設定	30
4.4.5	その他のカードの設定	30
4.4.6	カード挿入時のパラメータ設定	31
4.5	PC カードが使用できる資源を設定する	32
4.6	資源の設定方法	34
4.6.1	資源情報の追加	34
4.6.2	資源情報の削除	35
4.6.3	資源情報の変更	35
4.6.4	資源情報の検索方法	36
第5章	こんなときは	38
5.1	アプリケーションソフトを使用する	38
5.2	ネットワークを使用するには	38
5.3	NetWare/LAN マネージャを使用する	39
5.3.1	NetWare v3.11J のアップデート	39
5.3.2	LAN マネージャ v2.0a/2.1 のアップデート	39
5.4	拡張バス製品を使用する	40
5.5	カードライブラリのレコードをコピーする	40
5.6	カードライブラリのレコードを削除する	43
5.7	PC カードが使用するメモリウィンドウを拡張する	44
5.7.1	資源情報ファイル(CSALLOC.INI)を初期状態に戻す	44
付録 A	PC カードサポートソフトウェア	45
付録 B	カード環境設定ユーティリティ (CONFIG.EXE)の基本操作	47
付録 C	PC カードサポートソフトウェアデバイスドライバのパラメータ	52
付録 D	PC カードサポートソフトウェアユーティリティのスイッチ	55
付録 E	IRQ、INT 対応表	57
付録 F	Windows 上でのモデムカード使用について	58
付録 G	B4680 インタフェースカード T (PC-9801N-J02)ご使用上の注意	60
索引	61

第 1 章 PC カード概要

この章では使用できる PC カードにはどのようなものがあるかについて説明します。

1.1 PC カードとは

1.1.1 PC カードについて

本機種で使用できる PC カードにはメモ리카ードと I/O カードの 2 種類があります。

メモ리카ードはフロッピィディスクと同様に、アプリケーションソフトやデータのファイルを格納することができるカードです。

I/O カードは拡張バス製品と同様に、周辺装置との入出力などを行うことができるカードです。



「PC カード」とは、社団法人日本電子工業振興協会 (JEIDA) と PCMCIA との間で共同して標準化をすすめているカードの名称です。

1.1.2 メモ리카ードの種類

メモ리카ードは「フラッシュメモ리카ード」、「SRAM カード」などの種類があり、次のような特徴があります。

- フラッシュメモ리카ード
ファイル単位の読み出しができますが、ファイル単位の書き込みはできません。
書き込みはカード全体に対してのみ行えます。
- SRAM カード
ファイル単位の読み書きができますが、はじめて利用するときにはフォーマット (初期化) が必要です。内蔵電池によりデータを保持します。

種 類	フォーマット	読み込み	書き込み	電池	用 途
フラッシュ メモ리카ード	必要なし	可能	可能 (カード単位)	なし	主にデータ参照、 媒体のバックアップ用
SRAM カード	必要	可能	可能 (ファイル単位)	あり	フロッピィディスクと 同等の操作性

1.1.3 I/O カードの種類

I/O カードには「モデムカード」、「ネットワークカード」、「ATA カード」、「PCM サウンドカード」、「SCSI カード」などがあります。



ATA カードとは、固定ディスクと同様な機能を持った PC カードです。
使用できる PC カードは JEIDA Ver4.2/PCMCIA2.1 の仕様に準拠したカードです。



PC カードサポートソフトウェアが使用できる環境は、MS-DOS® 3.3D/5.0A/6.2(以下 MS-DOS)、Microsoft® Windows® 95/Version3.1(以下 Windows)です。他の OS では、PC カードサポートソフトウェアは使用できません。

1.1.4 PC カードサポートソフトウェア

MS-DOS または Windows 3.1 で PC カードを使用するためには、PC カードサポートソフトウェアが必要です。固定ディスク内蔵モデルの場合は、既に本体にインストール済みですので、そのまま PC カードが使用できます。

フロッピーディスクモデルをご使用の場合には、「第 2 章 PC カードサポートソフトウェアのインストール」を参照してください。

なお、PC カードサポートソフトウェアを構成するドライバ、ユーティリティの概要については付録 A を参照してください。

Windows 95 で PC カードを使用するには、PC カードサポートソフトウェアは必須ではありません。

Windows 95 で PC カードサポートソフトウェアを使用する場合は、「ソフトウェア補足ガイド」などを参照してください。



本マニュアルでは、MS-DOS または Windows 3.1 で PC カードサポートソフトウェアを使用することを前提に操作方法などを記述しています。Windows 95 で PC カードサポートソフトウェアを使用する場合は、「ソフトウェア補足ガイド」をご参照のうえ、本マニュアルの記述を Windows 95 に対応する機能に読みかえてください。



INI ファイルと CLB ファイル

PC カードサポートソフトウェアで使用される INI ファイル、CLB ファイルについて説明します。

CARDID.INI(標準設定ファイル)

カード種別ごとの標準設定情報が格納されています。

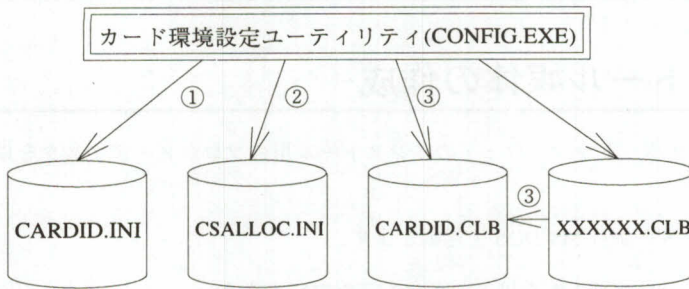
CSALLOC.INI(資源情報ファイル)

PC カードが使用できる資源 (メモリ、割り込み番号(IRQ)、I/O ポートなど) の情報が格納されています。

CARDID.CLB(カードライブラリファイル)

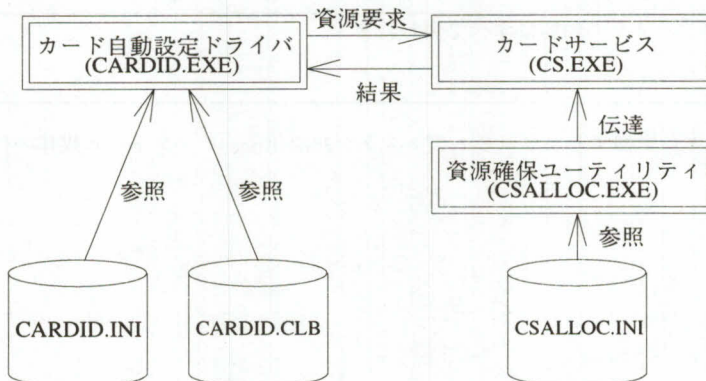
いろいろなカードごとの設定方法が格納されています。複数のカードの設定を格納することができ、1つの情報をレコードという単位で管理しています。

• INI ファイル、CLB ファイルの編集



- ① 「4.4 カード種別ごとの標準設定を作成する」を参照してください。
- ② 「4.5 PC カードが使用できる資源を設定する」を参照してください。
- ③ 「5.5 カードライブラリのレコードをコピーする」、
「5.6 カードライブラリのレコードを削除する」を参照してください。

• INI ファイル、CLB ファイルの参照



2.2 MS-DOS へのインストール

2.2.1 固定ディスクまたは光ディスクへのインストール



1. MS-DOS を起動します。
2. フロッピーディスクドライブに PC カードサポートソフトウェアディスクをセットします。
3. PC カードサポートソフトウェアディスクをセットしたドライブにカレントドライブを移動します。
4. インストールプログラムを起動します。

INSTCARD 

INSTCARD コマンド	Ver. x.xx
Copyright (C) NEC Coporation xxxx, xxxx -	
カードユーティリティをインストールします	
インストール元ドライブ	B:
インストール先ドライブ	A:
インストール先ディレクトリ	YDOS
実行	
終了	

インストール元ドライブの指定を行います
矢印キー (↑・↓・←・→) で項目を選択し、リターンキーを押してください
(ESC キーを押すと処理を中止することができます)

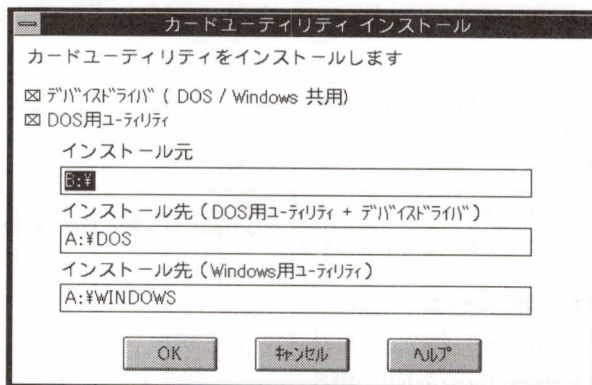
B:

5. インストール元のドライブ名とインストール先のドライブ名を選択します。
6. インストール先のディレクトリ名を入力します。
7.   キーで反転表示を移動し、「実行」を選択するとインストールを開始します。
8. インストール終了後は、PC カードを使用できるようにするために、リセットスイッチを押して本体を再起動してください。

2.3 Windows へのインストール

2.3.1 固定ディスクまたは光ディスクへのインストール

1. ファイルマネージャなどによりPCカードサポートソフトウェアディスクからWINSTCRD.EXEを起動します。(起動方法については、Windowsのマニュアルを参照してください)



2. インストールするモジュールを指定します。
Windows用のユーティリティは指定にかかわらずインストールします。
[デバイスドライバ(DOS/Windows 共用)] チェックボックス
WindowsとMS-DOSが共通に使用するファイルをインストールします。
[DOS用ユーティリティ] チェックボックス
MS-DOS上で動作するユーティリティをインストールします。
3. インストール元とインストール先を入力します。
[デバイスドライバ(DOS/Windows 共用)] と [DOS用ユーティリティ] チェックボックスの両方をチェックしていない場合 [インストール先 (DOS用ユーティリティ+デバイスドライバ)] の指定は必要ありません。
4. [OK] ボタンを押すとインストールを開始します。
5. インストールが終了するとPCカードユーティリティグループが作成され、Windows用ユーティリティのアイコンが登録されます。



注意

Windows 95ではWINSTCRD.EXEは使用できません。「ソフトウェア補足ガイド」を参照してください。

2.4 PC カードサポートソフトウェアの登録／削除

本ソフトウェアをインストールすると PC カードが使用できるようになります。しかし、何らかの理由により、PC カードの設定を削除したい場合、CONFIG.SYS の更新が必要です。この章では、PC カードサポートソフトウェアの登録／削除を行うための手順について説明します。

(CONFIG.SYS への登録／削除であり、インストール済のドライバ、ユーティリティのファイルは削除されません)

2.4.1 Windows 上での登録／削除

1. [PC カードユーティリティ] グループの「WCARDCFG」をダブルクリックします。
2. 「起動ドライブ」を指定し、「登録」または「削除」ボタンをクリックすると CONFIG.SYS の設定が更新されます。

なお、登録を選択した場合は、プラグ&プレイサポートソフトウェアの設定／解除を自動的に判別し、対応した PC カード用ドライバを登録します。

コマンド終了後は、Windows を終了させた後、リセットスイッチを押して本体を再起動してください。



Windows 95 では WCARDCFG.EXE は使用できません。「ソフトウェア補足ガイド」を参照してください。

2.4.2 MS-DOS 上での登録／削除

1. MS-DOS プロンプトから以下のコマンドを実行します。

CARDCFG

2. PC カードサポートソフトウェアを「登録」するか「削除」するか選択します。
3. 「起動ドライブ」を指定します。
4. 「実行」を選択すると、CONFIG.SYS の設定が更新されます。

なお、登録を選択した場合は、プラグ&プレイサポートソフトウェアの設定／解除を自動的に判別し、対応した PC カード用ドライバを登録します。

コマンド終了後は、リセットスイッチを押して本体を再起動してください。

2.5 プラグ&プレイ対応本体でご使用になる場合の補足事項

2.5.1 PC カードが使用できる資源を設定する

プラグ&プレイサポートソフトウェアが設定されている場合、本体で使用できる資源（メモリ、I/O ポート、割り込み番号）は、プラグ&プレイコンフィグレーションマネージャによって管理されるため、PC カードが使用できる資源をカード環境設定ユーティリティを使用して設定する必要はありません。

プラグ&プレイサポートウェアが解除されている場合の CONFIG.SYS

```
DEVICE=A:¥DOS¥SSDRV.SYS
DEVICE=A:¥DOS¥CS.EXE
◦ DEVICE=A:¥DOS¥CSALLOC.EXE A:¥DOS¥CSALLOC.INI
DEVICE=A:¥DOS¥CSS.SYS
DEVICE=A:¥DOS¥MCDRV.SYS
DEVICE=A:¥DOS¥HDCARD.SYS
DEVICE=A:¥DOS¥CARDID.EXE A:¥DOS¥CARDID.INI
```

プラグ&プレイサポートソフトウェアが設定されている場合の CONFIG.SYS

```
DEVICE=A:¥DOS¥SSDRV.SYS
◦ DEVICE=A:¥DOS¥CSPNP.EXE
DEVICE=A:¥DOS¥CSS.SYS
DEVICE=A:¥DOS¥MCDRV.SYS
DEVICE=A:¥DOS¥HDCARD.SYS
DEVICE=A:¥DOS¥CARDID.EXE A:¥DOS¥CARDID.INI
```

2.5.2 PC カードが使用するメモリウィンドウを拡張する

プラグ&プレイサポートソフトウェアが設定されている場合、カード環境設定ユーティリティにより、メモリ資源を追加する必要はありません。ただし、EMM386 を使用し、かつ UMB 機能を使用している場合は、EMM386 の行にパラメータの追加が必要になります。

以下は、メモリウィンドウを 16K バイト増やす場合に追加するパラメータ例です。

```
/E=D400-D7FF
```

2.6 プラグ&プレイサポートソフトウェアの環境設定/解除

プラグ&プレイサポートソフトウェアの設定/解除をした場合、PC カードサポートソフトウェアのドライバも切り替える必要があります。プラグ&プレイサポートソフトウェア設定/解除を行った場合、以下の手順に従い、PC カードサポートソフトウェアの切り替えも同時に行ってください。

(1)Windows 上での切り替え

1. [PC カードユーティリティ] グループの[WCARDCFG] をダブルクリックします。
2. 「起動ドライブ」を指定し、「登録」ボタンをクリックすると CONFIG.SYS の設定が変更されます。

プラグ&プレイサポートソフトウェアの設定/解除を自動的に判別し、対応した PC カード用ドライバを登録します。

コマンド終了後は、Windows を終了させた後、リセットスイッチを押して本体を再起動してください。



Windows 95 では WCARDCFG.EXE は使用できません。「ソフトウェア補足ガイド」を参照してください。

(2)MS-DOS 上での切り替え

1. MS-DOS プロントから以下のコマンドを実行します。

CARDCFG

2. 「登録」するを選択します。
3. 「起動ドライブ」を指定します。
4. 「実行」を選択すると、CONFIG.SYS の設定が変更されます。

プラグ&プレイサポートソフトウェアの設定/解除を自動的に判別し、対応した PC カード用ドライバを登録します。

コマンド終了後は、リセットスイッチを押して本体を再起動してください。

第3章 PCカードの使い方

この章ではPCカードを使用するために必要なユーティリティの操作手順について説明します。

3.1 SRAM カードを使う

SRAMカードをはじめて使用するにはカードをフォーマット（初期化）しなければなりません。フォーマットした後はフロッピーディスクと同様に読み書きが可能です。

3.1.1 MS-DOSによるフォーマット

1. コマンドプロンプトからメモリカードユーティリティを起動します。

MCUTL 

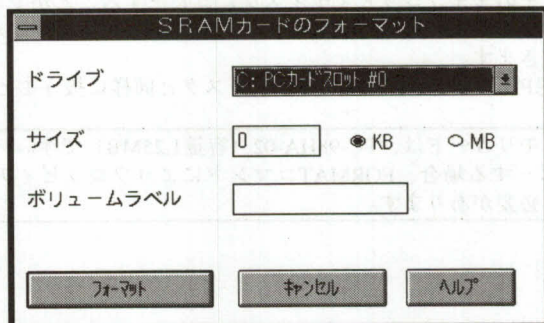
2. 「SRAMカードのフォーマット」を選択します。

MCUTLコマンド	Ver. x.xx	Copyright (C) NEC Coporation xxxx,xxxx
SRAMカードのフォーマット		
ドライブ	D:	接続状況 D: PCカード'スロット #0 E: PCカード'スロット #1
サイズ		
ボリュームラベル	指定しない	
実行		
SRAMカードのドライブを指定してください 矢印キー（↑・↓・←・→）で項目を選択し、リターンキーを押してください （ESCキーを押すと処理を中止し、前の画面に戻ります） D: E:		

3. フォーマットするSRAMカードが挿入されているドライブを指定します。
4. SRAMカードのサイズを入力します（1MBの場合は「1M」、512KBの場合は「512K」、1.5MBの場合は「1500K」など）。64KBの整数倍でフォーマットされます。
5. ボリュームラベルをつけるかどうかを指定します。
6. 「実行」を選択するとSRAMカードのフォーマットを開始します。
7. フォーマットが終了すると最初のメニュー画面に戻ります。「終了」を選択すると終了します。

3.1.2 Windowsによるフォーマット

1. [PCカードユーティリティ] グループから [Card Tool] を起動します。
2. [Card Tool] ウィンドウから [SRAMカードのフォーマット] を起動します。



3. フォーマットするドライブを選択します。
4. フォーマットする容量を [サイズ] 欄に入力し、 [KB] オプションボタンもしくは [MB] オプションボタンのどちらかの単位を選びます。64KBの整数倍でフォーマットされます。
5. ボリュームラベルをつける場合には [ボリュームラベル] 欄につけたいボリュームラベルを入力します。
6. [フォーマット] ボタンを押すと確認入力の後SRAMカードのフォーマットを開始します。
7. [Card Tool] ウィンドウを終了します。

3.2 フラッシュメモリカードを使う

3.2.1 フラッシュメモリカードのコピー

フロッピーディスクの内容をそのままフラッシュメモリカードにコピーしたり、逆にフラッシュメモリカードの内容をそのままフロッピーディスクにコピーすることができます。また、PCカードスロットが2スロット以上使用できる環境の場合、フラッシュメモリカード同士のコピーも行うことができます。なお、RAMドライブ、仮想FDドライブもフロッピーディスクと同様に扱うことができます。



コピー可能なフラッシュメモリカードは、PC-98HA-02（容量1.25MB）です。フロッピーディスクにコピーする場合、FORMATコマンドによりフロッピーディスクを同じ容量でフォーマットしておく必要があります。

3.2.2 MS-DOSによるコピー

1. コマンドプロンプトからカードユーティリティを起動します。

MCUTL

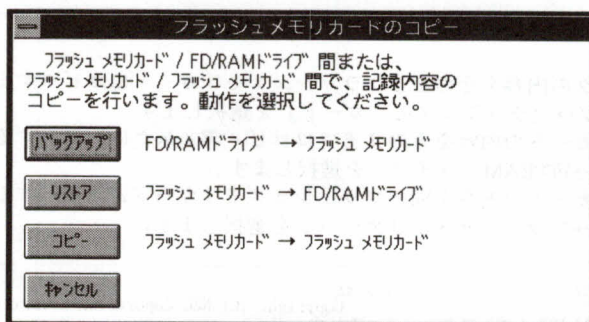
2. 「フラッシュメモリカードのコピー」を選択します。
3. フロッピーディスクの内容をそのままフラッシュメモリカードにコピーするには「FD/RAMドライブ→フラッシュメモリカード」を選択します。
フラッシュメモリカードの内容をそのままフロッピーディスクにコピーするには「フラッシュメモリカード→FD/RAMドライブ」を選択します。
フラッシュメモリカードの内容を別のフラッシュメモリカードにコピーするには「フラッシュメモリカード→フラッシュメモリカード」を選択します。

MCUTLコマンド	Ver. x.xx	Copyright (C) NEC Coporation xxxx,xxxx
FD/RAMドライブ→フラッシュメモリカード		
送り側ドライブ	B:	接続状況 B: フロッピーディスク #1(内蔵) C: RAMドライブ D: PCカードスロット #0 E: PCカードスロット #1
受け側ドライブ	D:	
実行		
送り側 (FD/RAMドライブ) のドライブを指定してください 矢印キー (↑・↓・←・→) で項目を選択し、リターンキーを押してください (ESCキーを押すと処理を中止し、前の画面に戻ります) B: C:		

4. 「送り側ドライブ」「受け側ドライブ」にドライブ名を設定します。
5. 「実行」を選択するとフラッシュメモリカードのコピーを開始します。
6. コピーが終了すると最初のメニュー画面に戻ります。「終了」を選択すると終了します。

3.2.3 Windowsによるコピー

1. [PCカードユーティリティ] グループから [Card Tool] を起動します。
2. [Card Tool] ウィンドウから [フラッシュメモ리카ードのコピー] を起動します。



3. フロッピーディスクからフラッシュメモ리카ードへコピーする場合は [バックアップ] ボタンを選択します。
フラッシュメモ리카ードからフロッピーディスクへコピーする場合は [リストア] ボタンを選択します。
フラッシュメモ리카ードから別のフラッシュメモ리카ードにコピーする場合は [コピー] ボタンを選択します。
4. [ドライブ選択] ダイアログボックスで対象となるフロッピードライブまたは、フラッシュメモ리카ードのドライブを選択します。
5. [OK] ボタンを押すと確認入力の後コピーを開始します。
6. [Card Tool] ウィンドウを終了します。

3.3 ATAカードを使う

3.3.1 MS-DOSによるフォーマット

1. コマンドプロンプトからPFDISKコマンドを起動します。

PFDISK

```
PFDISK Ver. x.xx  
Copyright (C) NEC Corporation xxxx  
ATAカードを初期状態に設定します  
(初期状態に設定すると、ATAカード内のデータはすべて失われます)  
  
スロット 0 は ドライブ D: です  
スロット 1 は ドライブ E: です  
  
ATAカードのドライブ名を入力し、  
リターンキーを押してください
```

2. ATAカードのドライブを指定します。
3. 確認で「Y」を入力するとATAカードを初期状態にします。
4. PFDISKコマンドが終了した後、コマンドプロンプトからHDCARDFコマンドを起動します。

HDCARDF

```
HDCARDF Ver. x.xx  
Copyright (C) NEC Corporation xxxx  
ATAカードのフォーマットを行います  
  
スロット 0 は ドライブ D: です  
スロット 1 は ドライブ E: です  
  
ATAカードのドライブ名を入力し、  
リターンキーを押してください
```

5. ATAカードのドライブを指定します。
6. どれかキーを押すとフォーマットを開始します。
7. ボリュームラベルを入力します。

注意

- ATAカードのフォーマットはMS-DOSコマンドプロンプト上で行います。
- ATAカードからの起動はできません。
- ATAカード内をパーティションで分けて使用することはできません。
- ATAカードアクセス中はカードを抜かないでください。
- MS-DOS 3.3Dを使用している場合は、使用できる最大容量は32MBまでとなります。

3.4 I/Oカードを使う

3.4.1 I/Oカードの設定

I/Oカードを使う場合、PCカードやアプリケーションによってはI/Oアドレスの変換や割り込み番号などの設定が必要な場合があります。
また拡張バス製品を使用する場合、拡張バス製品情報をあらかじめ設定することによりPCカードの情報との衝突を防ぐことができます。

PCカード挿抜時に通知音が鳴ります。通知音によってはPCカードの設定が必要です。

	通知音	意 味
カード挿入時	ピッ	カードが自動設定されました。カードの設定を行う必要はありません。（他社機用カードの場合はカードの設定を行ってください）
	ピー	カードが自動設定されませんでした。カードの設定を行ってください。
カード排出時	ピッ	PCカードが排出されました。



PCカードや拡張バス製品が使用するI/Oアドレスの範囲や割り込みレベルおよび、アドレス変換の指定についてはPCカードや拡張バス製品またはアプリケーションソフトウェアの説明書に従ってください。

3.4.2 設定方法について

I/Oカードを設定する方法には以下の3つがあります。

1. カード添付のドライバで、自動設定する。
購入したPCカードに添付されるドライバを組み込むことにより、ドライバ自身がPCカードを自動設定する。（購入したPCカードに添付されているマニュアルを参照してください）
2. カード添付のライブラリで、自動設定する。
購入したPCカードに添付される設定用のライブラリのデータをCARDID.CLBにコピーすることにより、自動設定させる方法。
（「5.5 カードライブラリのレコードをコピーする」を参照してください）
3. カード種別ごとに、自動設定する。
モデムカード、ネットワークカードなどそのカード種別ごとに、標準の設定をあらかじめ作成しておき、自動設定させる方法。
（「4.4 カード種別ごとの標準設定を作成する」を参照してください）



拡張バス製品（SCSIボードなど）を使用している場合、I/Oカードが使用するシステム資源（メモリや割り込み番号等）と重複しI/Oカードが使えない可能性があります。そこで、あらかじめ拡張バス製品が使用するシステム資源を登録しておき、I/Oカードが使うシステム資源と重ならないようにする必要があります。（「4.5 PCカードが使用できる資源を設定する」を参照してください）

第4章 使用環境の表示／設定

この章では、PCカード表示設定ユーティリティについて説明します。

4.1 使用しているPCカードの情報を表示する

4.1.1 MS-DOS による実行

1. コマンドプロンプトから CARDINFO.EXE を実行します。

CARDINFO 

各スロットに存在する PC カードの以下の情報を表示します。

- カード種別
- メーカー名
- 製品名

注意



- CARDINFO.EXE は Windows の DOS プロンプトでは実行できません。
- PC カードの上記情報が JEIDA/PCMCIA の規格通りでない場合、一部表示が不正になることがあります。

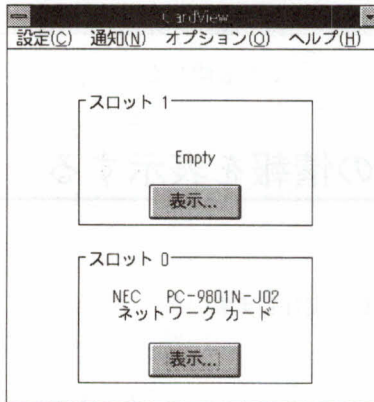
参考



CARDINFO にはいくつかのスイッチが指定できます。
詳しくは、付録 D を参照してください。

4.1.2 Windows による実行

1. [PC カードユーティリティ] グループより [CardView] を起動します。



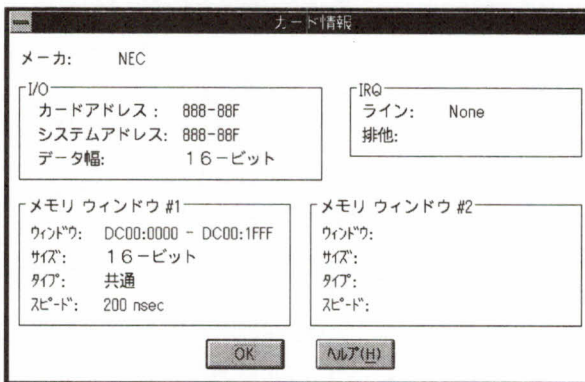
各スロットに存在する PC カードの以下の情報を表示します。

- カード種別
- メーカー名
- 製品名

注意

CardView は Windows のエンハンスドモードにのみ対応しています。
Windows の起動方法については Windows のマニュアルを参照してください。

2. 「表示. . .」ボタンを選択することにより、さらに詳細な PC カードの情報が表示されます。



以下にそれぞれの項目について説明します。

なお、実際に表示される情報は、カードの種別ごとに異なります。カードの種別によっては、必要のない項目は空白表示となります。

メーカー

メーカー名を表示します。

I/O

- カードアドレス
PCカードが使用する I/O アドレスを表示します。
- システムアドレス
本体で使用する I/O アドレスを表示します。
- データ幅
PCカードとデータをやりとりする場合の単位を表示します。

IRQ

- ライン
PCカードに割り当てられている、割り込み番号 (IRQ) を表示します。
INT 番号との対応は、付録 E を参照してください。
- 排他
「はい」または「いいえ」を表示します。
「はい」 … 割り込みをその PC カードで独占的に使用します。
「いいえ」 … 割り込みを他の PC カードと共有で使用します。

メモリウィンドウ

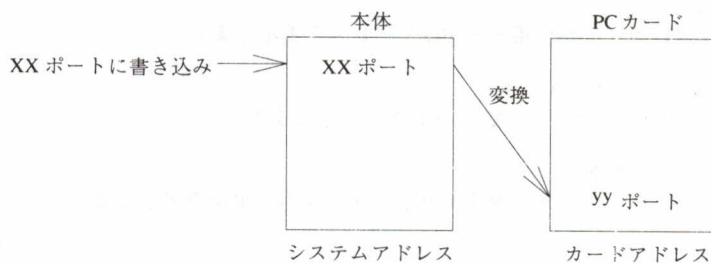
- ウィンドウ
PCカードが使用するメモリのアドレスが表示されます。
最大 2 つまで使用でき、1 つめは「メモリウィンドウ #1」に、2 つめは「メモリウィンドウ #2」に表示されます。
- サイズ
PCカード、メモリ間のデータバスサイズを表示します。
- タイプ
「共通」または「属性」を表示します。
「共通」 … PCカードが使用するメモリを示します。
「属性」 … PCカード情報等が格納されているメモリを示します。
- スピード
カードが情報を転送するスピードを表示します。



カードアドレスとシステムアドレス

使用する PC カードによっては、本体で使用している I/O アドレスと PC カードの I/O アドレスが異なる場合があります。このような場合、本ソフトウェアでは、本体で発行された I/O を PC カードの I/O に変換して発行する機能を持っています。

この機能のことを I/O 変換機能といいます。



CardView の操作

アイコン化

CardView をアイコン状態にすることができます。

アイコン状態では、最初の 2 スロット分の情報が確認できます。

アイコン化するには、CardView 画面のアイコン化ボタンをクリックするか、コントロールメニューボックスから、アイコン化を選択します。



CardView の終了

以下のいずれかの方法で、CardView を終了することができます。

- コントロールメニューボックスをダブルクリックする。
- コントロールメニューボックスの「閉じる」を選択する。
- **GRPH**+**f・4** キーを押す。

4.2 CardView による設定

CardView により、カード種別ごとの標準設定方法やカード状態の通知方法を変更することができます。変更できる項目は以下の通りです。

- NEC モデムカードの通信音の設定
- NEC モデムカードの COM ポートの選択
- ネットワークカードの設定
- その他のカードの設定
- カード種別ごとの通知の有無
- カード挿抜などのイベント通知の有無

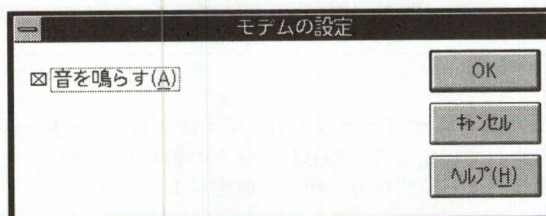
注意



- 変更した設定は、次回の PC カード挿入時より有効となります。
- CardView で変更した設定は、標準設定ファイル (CARDID.INI) に保存されます。

4.2.1 NEC モデムカード全体の設定 (通信音の設定)

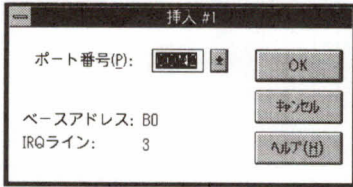
1. メニューバーより「設定(C)」を選択します。
2. 「モデム(M)」を選択します。
3. 「全体の設定(G)」を選択します。



「音を鳴らす」チェックボックスにチェックをつけると、通信音が鳴るように設定されます。

4.2.2 NEC モデムカードの設定（個々のカードの設定）

1. メニューバーから「設定(C)」を選択します。
2. 「モデム(M)」を選択します。
3. 「挿入 1」または「挿入 2」を選択します。



ポート番号を設定します。ポート番号はプルダウンメニューより COM2 または COM3 を選択します。

4.2.3 ネットワークカードの設定

1. メニューバーより「設定(C)」を選択します。
2. 「ネットワーク(N)」を選択します。
3. 「挿入 1」または「挿入 2」を選択します。

メモリウィンドウ 1、メモリウィンドウ 2、ベース I/O アドレス、IRQ ラインを設定します。
メモリウィンドウ 1、メモリウィンドウ 2、IRQ ラインはプルダウンメニューより選択します。



「挿入 1」と「挿入 2」

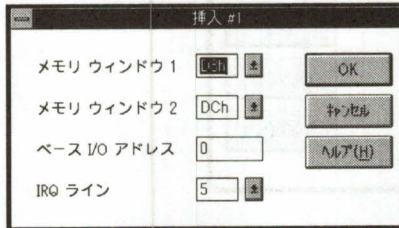
「挿入 1」「挿入 2」は、場合によって「スロット 0」「スロット 1」と表示されます。これは、「カード種別ごとの標準設定」で指定した「COM ポートの割り当て順」、または「LAN ポートの割り当て順」「その他のポートの割り当て順」の設定によります。

割り当て順を「挿入した順番」に設定した場合 → 「挿入 1」「挿入 2」

割り当て順を「スロットの順番」に設定した場合 → 「スロット 0」「スロット 1」

4.2.4 その他のカードの設定

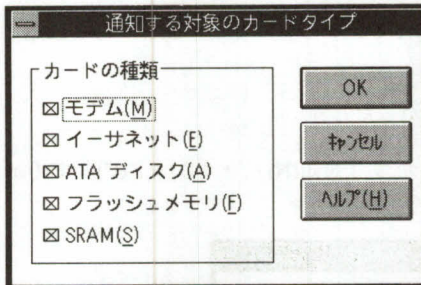
1. メニューバーより「設定(C)」を選択します。
2. 「その他のカード(O)」を選択します。
3. 「挿入 1」または「挿入 2」を選択します。



メモリウィンドウ 1、メモリウィンドウ 2、ベース I/O アドレス、IRQ ラインを設定します。
メモリウィンドウ 1、メモリウィンドウ 2、IRQ ラインはプルダウンメニューより選択します。

4.2.5 カード種別ごとの通知の有無

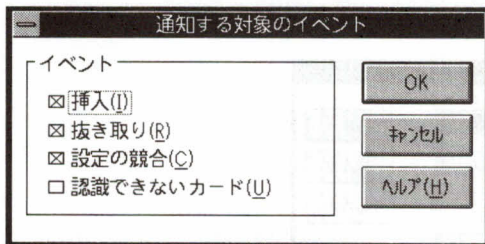
1. メニューバーより「通知(N)」を選択します。
2. 「カード(C)」を選択します。



それぞれのチェックボックスにチェックをつけると、チェックをつけたカード種別に対するイベントが起こったときに、通知画面が表示されます。通知されるイベントは、「通知(N)」→「イベント(E)」の設定によります。また、CardView のオプション指定で「カード挿抜時のビープ音」を「有効」に設定してある場合、通知音も発生させることができます。

4.2.6 カード挿抜などのイベント通知の有無

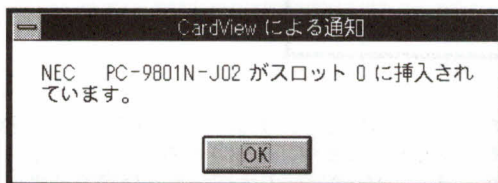
1. メニューバーより「通知(N)」を選択します。
2. 「イベント(E)」を選択します。



それぞれのチェックボックスにチェックをつけると、チェックされたイベントが起こったときに、通知がされます。

- 挿入
PC カードをスロットに挿入したとき
- 抜き取り
PC カードをスロットから抜き取ったとき
- 設定の競合
資源（メモリ、割り込み番号(IRQ)、I/O ポート）などに競合があり設定できなかったとき
- 認識できないカード
挿入した PC カードが認識できなかったとき

例えば、「挿入」にチェックをつけ、かつ「通知(N)」→「カード(C)」でチェックしたカードが挿入されると、以下の通知画面が表示されます。



4.3 CardView のオプションとヘルプ

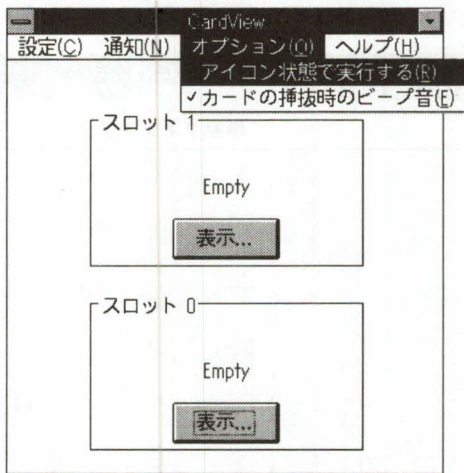
4.3.1 CardView のオプション

以下のオプションが指定できます。

- アイコン状態で実行する
- カードの挿抜時のビーブ音

オプションの指定

1. メニューバーより「オプション(O)」を選択します。
2. 「アイコン状態で実行する(R)」または「カードの挿抜時のビーブ音」をチェックします。



項目名のとなりにチェックがついていれば、設定が有効です。

「アイコン状態で実行する」が有効な場合
CardView をアイコン状態で起動します。

「カード挿抜時のビーブ音」が有効な場合
カード挿抜時にビーブ音で通知します。

4.3.2 CardView のヘルプ

CardView にはオンラインヘルプが用意されています。
ヘルプの使い方については、Windows のマニュアルを参照してください。

4.4 カード種別ごとの標準設定を作成する

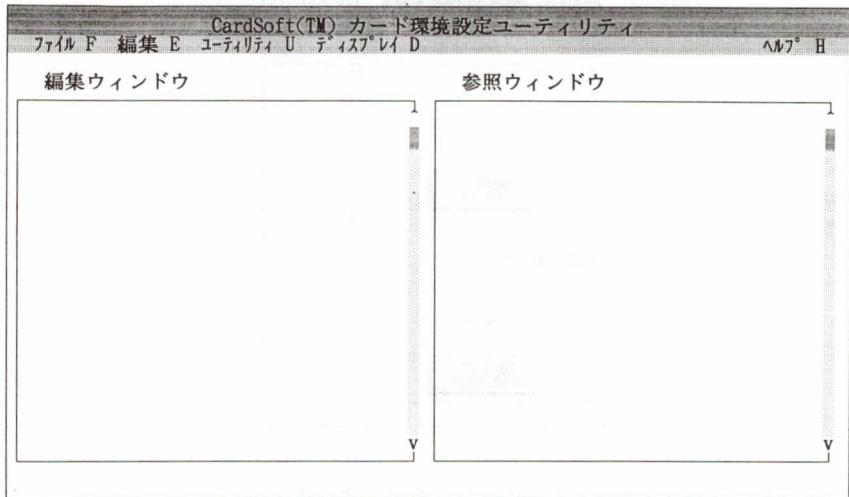
モデム、ネットワークおよび ATA カードなどのカード種別ごとに標準設定をあらかじめ用意しておき、カード挿入時カード自動設定ドライバ (CARDID.EXE) に自動的に設定させる方法です。設定した内容は CARDID.INI というファイルに書き込まれます。CARDID.INI を編集するためには、カード環境設定ユーティリティ (CONFIG.EXE) を使用します。



カード環境設定ユーティリティの基本操作については付録 B を参照してください。

1. カード環境設定ユーティリティを起動します。初期画面を確認後 キーを押すと以下の画面が表示されます。

CONFIG



2. 「ファイル」プルダウンメニューから「標準設定の編集」を選択します。

注意

CARDID.INI は CONFIG.EXE が存在するドライブ、ディレクトリから読み込まれます。

標準設定の編集

<NEC modem> : N E C モデムカードの設定
<Modem > : モデムカードの設定
<Network > : ネットワークカードの設定
<ATA > : A T A カードの設定
<Other > : その他のカードの設定
<Card > : カード挿入時のパラメータ設定

< OK > — <キャンセル> — < ヘルプ > —

3. **GRPH**+アルファベットキーを入力することにより、それぞれの設定が行えます。
それぞれの項目の設定は、次節を参照してください。
4. すべての設定が終了したら、「ファイル」プルダウンメニューから「標準設定の保存」を選択します。編集した内容が CARDID.INI に書き込まれます。

注意

保存を実行せずにカード環境設定ユーティリティを終了した場合、編集した内容はすべて消去されます。

5. 「ファイル」プルダウンメニューから「終了」を選択し、カード環境設定ユーティリティを終了します。
6. 変更した内容を有効にするため、リセットスイッチを押し本体を再起動してください。

4.4.1 NEC モデムカードの設定

NEC モデムカード (PC-9801N-J01) の標準設定を作成します。

NECモデムカードの設定	
COMポートの順番 1 番目 : ポート 2 2 番目 : ポート 3	COMポートの定義 ポート 2: 00B0, IRQ 03 ポート 3: 00B0, IRQ 12
COMポートの割り当て順 (*) 挿入した順番 () スロットの順番	その他の設定 <input checked="" type="checkbox"/> 通信音を鳴らす
————— < OK > ————— <キャンセル> ————— < ヘルプ > —————	

- COM ポートの順番

以下に説明する COM ポートの割り当て順に従い、そのモデムを COM ポートのいくつにするか入力します。2 または 3 が設定できます。

(COM1 は本体に標準で内蔵されているため、指定できません)

例えば、COM ポートの順番で「1 番目に 3」、COM ポートの割り当て順に「挿入した順番」をチェックした場合、以下のような設定になります。

最初に挿入したモデムカード	COM3
2 番目に挿入したモデムカード	COM2

- COM ポートの定義

それぞれの COM ポートに対する、I/O ポートアドレスおよび割り込み番号が表示されています。

COM2、COM3 が使用する割り込み番号を指定します。

- COM ポートの割り当て順

COM2、COM3 をどのような順番で割り当てるか指定します。

「挿入した順番」または「スロットの順番」のどちらかを選択します。

- その他の設定

通信音を発生させたい場合、選択を有効にします (X 印をつける)。



AT/V.25bis の切り替え、およびメモリスイッチの設定は、MDMMENU.EXE で行ってください。MDMMENU コマンドでモデムカードの設定を行うときは、モデムカードを 1 枚だけ挿入して実行してください。

4.4.2 モデムカードの設定

FAX モデムカード(PC-9801N-J05 を除く)やモデムカードの標準設定を作成します。

モデムカードの設定	
COMポートの順番 1 番目 : ポート 4 2 番目 : ポート 5 3 番目 : ポート 6	COMポートの定義 ポート 4: 00D0, IRQ 03 ポート 5: 01D0, IRQ 05 ポート 6: 02D0, IRQ 10
COMポートの割り当て順 (*) 挿入した順番 () スロットの順番	その他の設定 [X] 通信音を鳴らす
< OK > <キャンセル> <ヘルプ>	

基本的に、前節モデムカードの設定とはほぼ同じですので、そちらを参照してください。以下に、モデムカードの設定と異なる部分について説明します。

- COM ポートの順番
COM ポートとしていくつを割り当てるか入力します。4~6の値が指定できます。
- COM ポートの定義
割り込み番号 (IRQ) に加えて、I/O ポートを指定できます。

4.4.3 ネットワークカードの設定

ネットワーク (LAN) カードの標準設定を作成します。

ネットワークカードの設定	
LAN1 - I/O 03D0, IRQ 05 ,メモリアドレス*が1 DC00 ,メモリアドレス*が2 DE00 LAN2 - I/O 04D0, IRQ 10 ,メモリアドレス*が1 DC00 ,メモリアドレス*が2 DE00	
LANポートの割り当て順 (*) 挿入した順番 () スロットの順番	
< OK > <キャンセル> <ヘルプ>	

- I/O
ネットワークカードが使用する I/O ポートを指定します。
- IRQ
ネットワークカードが使用する割り込み番号 (IRQ) を指定します。
- メモリウィンドウ
ネットワークカードが使用するメモリアドレスを指定します。上位 2 桁のみ入力します。また、メモリウィンドウは「メモリウィンドウ 1」および「メモリウィンドウ 2」の 2 つまで指定することができます。
- LAN ポートの割り当て順
LAN1、LAN2 をどのような順番で割り当てるか指定します。「挿入した順番」または「スロットの順番」のどちらかを選択します。

4.4.4 ATA カードの設定

ATA カードの標準設定を作成します。

```
          A T Aカードの設定
    [ ] Primary ATA アドレス
    [ ] Secondary ATA アドレス
    [ ] 連続 ATA アドレス
    _____ < OK > _____ <キャンセル> _____ <ヘルプ? > _____
```

- Primary ATA アドレス
1 番目のアドレスで設定を試みます。
- Secondary ATA アドレス
2 番目のアドレスで設定を試みます。
- 連続 ATA アドレス
連続したアドレスで設定を試みます。

注意

ATA ドライバ (HDCARD.SYS) を組み込んだ場合は、本設定に関係なく自動的に設定されます。他の ATA ドライバを使用する場合は、ドライバ添付のマニュアルを参照してください。

4.4.5 その他のカードの設定

NEC モデム、モデム、ネットワーク、ATA 以外の種別のカードに対して標準設定を作成します。

```
          その他のカードの設定
OTHER1 - I/O 05D0, IRQ 05 ,メモリウィンドウ1 DC00 ,メモリウィンドウ2 DE00
OTHER2 - I/O 06D0, IRQ 10 ,メモリウィンドウ1 DC00 ,メモリウィンドウ2 DE00
その他の割り当て順
(*) 挿入した順番
( ) スロットの順番
    _____ < OK > _____ <キャンセル> _____ <ヘルプ? > _____
```

I/O ポートアドレス、割り込み番号 (IRQ)、メモリウィンドウ 1/2 の指定をします。指定の方法は、ネットワークカードの設定と同じなので、そちらを参照してください。

4.4.6 カード挿入時のパラメータ設定

すべてのカード種別に対して、共通のパラメータ設定を作成します。

カード挿入時のパラメータ設定	
<input type="checkbox"/>	設定失敗のまま継続します
<input type="checkbox"/>	DOS上でイベントが起きた際にビープ音を鳴らす
<input type="checkbox"/>	Windows上でイベントが起きた際にビープ音を鳴らす
————— < OK > ——— <キャンセル> ——— < Alt? > ———	

- 設定失敗のまま継続します

有効 … ライブラリ中の最初に見つかった設定可能レコードで設定に失敗した場合でも、次に設定可能なレコードを探し、設定を続けます。

無効 … ライブラリ中の最初に見つかった設定可能レコードで設定に失敗した場合、設定を終了します。

- DOS 上でイベントが起きたときにビープ音を鳴らす

有効 … イベント（カードの挿抜や資源の競合）が起こったとき、ビープ音を鳴らします。

無効 … イベントが起こったときビープ音を鳴らしません。

- Windows 上でイベントが起きたときにビープ音を鳴らす

有効 … イベントが起こったとき、ビープ音を鳴らします。

無効 … イベントが起こったときビープ音を鳴らしません。

4.5 PC カードが使用できる資源を設定する

使用する拡張バス製品によっては、割り込み番号（IRQ）やメモリ、I/O ポートなど本体の資源を使用します。拡張バス製品が使用する資源は、PC カードの資源として割り当てられないため、あらかじめ、PC カードが使用できる資源から除外しておく必要があります。他にも、PC カードが使用する資源を予約したり、利用可能な資源の範囲を変更したりすることができます。このような PC カードが使用できる資源の情報は CSALLOC.INI というファイルに格納されています。CSALLOC.INI を編集するには、カード環境設定ユーティリティ（CONFIG.EXE）を使用します。



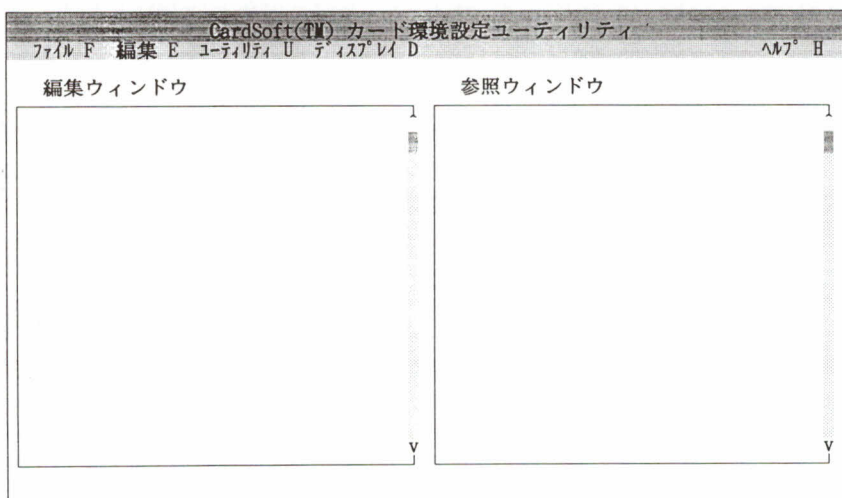
プラグ&プレイサポートソフトウェアが設定されている場合、本体で使用できる資源（メモリ、I/O ポート、割り込み番号）は、プラグ&プレイコンフィギュレーションマネージャによって管理されるため、PC カードが使用できる資源をカード環境設定ユーティリティを使用して設定する必要はありません。



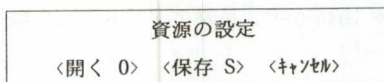
カード環境設定ユーティリティの基本操作については付録 B を参照してください。

1. カード環境設定ユーティリティを起動します。初期画面を確認後 キーを押すと以下の画面が表示されます。

CONFIG



2. 「ユーティリティ」プルダウンメニューから「資源の設定」を選択します。
以下のような資源設定のメニューが表示されます。

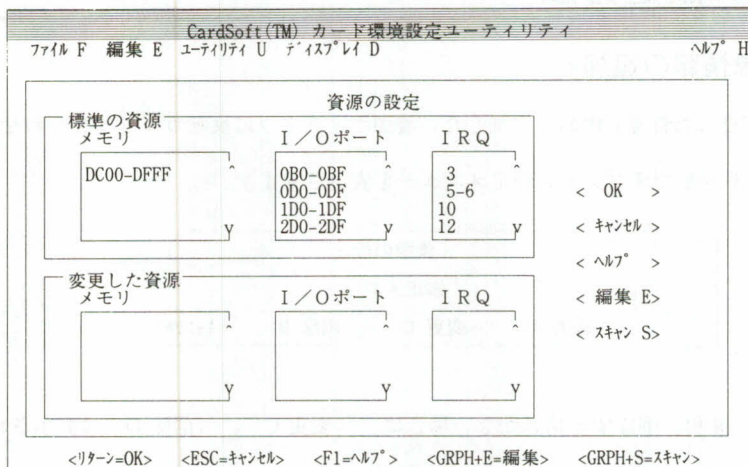


3. **GRPH**+Oを入力することにより、CSALLOC.INIを読み込み、編集を開始することができます。



CSALLOC.INIはCONFIG.EXEが存在するドライブ、ディレクトリから読み込まれます。

CSALLOC.INIをオープンすると以下の画面が表示されます。



「標準の資源」

PCカードが標準的に使用できる資源の情報が表示されます。参照のみ可能です。

「変更した資源」

追加、または削除した資源の情報が表示されます。この領域で編集を行います。

● メモリ

PCカードが利用できるメモリのアドレス範囲が表示されます。
アドレスは、4Kバイト境界に限定されます。

例えば、

DC00-DFFF であれば DC000~DFFFF までの16Kバイトとなります。

- I/O ポート
PC カードが利用できる I/O ポート範囲が表示されます。
I/O ポートは 8 バイト境界で設定が可能です。
例えば、先頭アドレスとしては、200h や 208h など、最終アドレスとしては 207h、20Fh など
を指定します。
 - IRQ
PC カードが利用できる割り込み番号 (IRQ) 範囲が表示されます。
4. 編集が終了したら、資源設定のメニューで **GRPH**+S を入力します。これにより、編集した内容が CSALLOC.INI に書き込まれます。



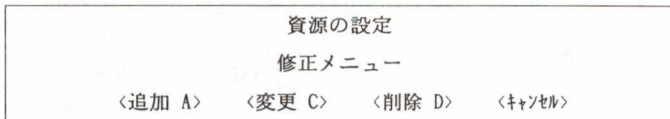
保存を実行せずにカード環境設定ユーティリティを終了した場合、編集した内容はすべて消去されます。

5. 変更した内容を有効にするために、リセットスイッチを押し本体を再起動してください。

4.6 資源の設定方法

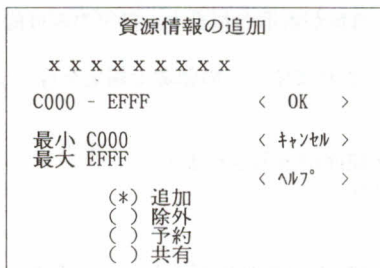
4.6.1 資源情報の追加

1. 「変更した資源」中の、追加したい資源ウィンドウに反転カーソルを合わせます。
2. **GRPH**+E でオプション修正メニューを表示させます。



※ 変更、削除する情報がない場合は、<変更 C>、<削除 D> は表示されません。

3. **GRPH**+A で追加コマンドを選択します。



4. メモリアドレス、I/O ポートまたは割り込み番号(IRQ)の範囲を入力します。
5. 資源の属性を以下の中から選択します。
 - 追加 : PC カードが使用できる資源として情報を追加します。
 - 除外 : PC カードが使用できない資源として情報を追加します。
 - 予約 : PC カードが予約した資源として情報を追加します。
 - 共有 : PC カードが共有して使用する資源として情報を追加します。



資源の予約、共有

予約:

例えば、ある PC カードが特定の資源のみしか使用できない場合、別の PC カードが先に挿入され、カードサービスがその資源を割り当ててしまうと、そのカードは使用できなくなってしまう可能性があります。そこで、特定の資源を予約指定しておくことによって、特にその資源を必要とする PC カード以外には、資源を割り当てないように設定することができます。

共有:

共有で指定された資源は、複数の PC カードで共有して使用することができます。これにより、システム全体の資源を節約することができます。ただし、この共有資源を使うためには、PC カードを制御するドライバが共有資源を扱える機能を持っている必要があります。従って、PC カード添付のマニュアルで特に明記していない場合は、共有の指定はしないでください。

4.6.2 資源情報の削除

選択した資源の範囲すべて、あるいはその一部を削除したい場合に実行します。

1. 「変更した資源」中の、削除したい項目に反転カーソルを合わせます。
2. **[GRPH]+E** でオプション修正メニューを表示させます。
3. **[GRPH]+D** で削除コマンドを選択します。
4. 選択した範囲全体を削除する場合、そのまま **[]** キーを押してください。もし、一部を削除したい場合は、メモリアドレス、I/O ポートまたは割り込み番号(IRQ)の範囲を入力します。例えば、I/O ポート 300-3FF の項目を選択し、320-33F までの情報を削除したい場合、範囲に 320-33F と入力してから **[]** キーを押します。
5. 確認画面が表示され、間違いがなければ **[]** キーを押します。

4.6.3 資源情報の変更

選択した資源の範囲すべて、または一部の属性を変更したい場合に実行します。

1. 「変更した資源」中の、変更したい項目に反転カーソルを合わせます。

2. **[GRPH]**+E でオプション修正メニューを表示させます。
3. **[GRPH]**+C で変更コマンドを選択します。
4. 選択した範囲全体を変更する場合、属性を変更した後そのまま **[]** キーを押してください。もし、一部を変更したい場合は、メモリアドレス、I/O ポートまたは IRQ の範囲を入力します。例えば、I/O ポート 300-3FF、属性： 「追加」の項目を選択し、320-33F までの属性を「予約」に変更したい場合、範囲に 320-33F と入力し「予約」を選択してから **[]** キーを押します。
5. 確認画面が表示され、間違いがなければ **[]** キーを押します。

4.6.4 資源情報の検索方法

PC カードが使用できる資源を検索し、「標準の資源」ウィンドウに表示します。検索する対象は、メモリおよび割り込み番号(IRQ)です。なお、I/O ポートは初期設定状態に戻ります。

1. 資源の設定画面で、**[GRPH]**+S キーを入力します。
2. 検索結果が「標準の資源」ウィンドウに表示されます。

※資源情報の編集を行った場合は、保存を実行してから検索を行ってください。



SCSI ボード (PC-9801-92 等) または、ドッキングステーション (PC-9821N-U04/05) を増設する場合の指定方法

SCSI ボードは以下の設定になっているとします。

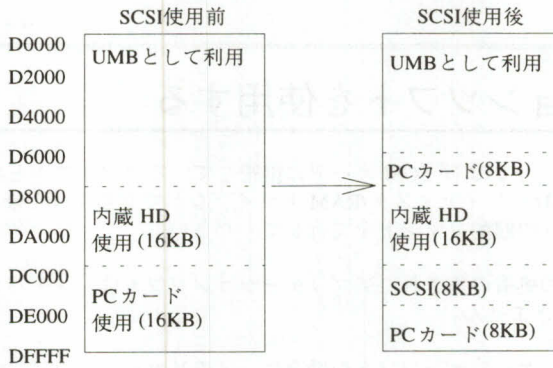
メモリ	:	DC000-DDFFF
I/O	:	CCx (x は 0,2,4)
INT	:	0

1. 資源の追加

- SCSI ボードが使うメモリを PC カードの資源から除外します。
メモリ : DC00-DDFF までを、属性「除外」で追加します。
- PC カードのメモリが全体で 16K バイトとなるように新たに資源を追加します。
メモリ : D600-D7FF までを、属性「追加」で追加します。
- SCSI ボードが使用する IRQ を PC カードの資源から除外します。
IRQ : 3 を、属性「除外」で追加します。
(付録 E で INT0 に対応する IRQ3 を指定します)

2. EMM386.EXE を使用し、かつ UMB 機能を使用している場合下線の記述を追加します。

DEVICE=A:¥DOS¥EMM386.EXE /UMB /E=DC00-DFFF /E=D600-D7FF ...



PC カードのメモリ資源は、最低 16K バイトとなるように指定します。
(8KB はカードサービスが使用します)



PC カードで使用できる最大メモリ資源

D0000	使用可 (32KB)
D2000	
D4000	
D6000	
D8000	使用不可
DA000	使用可 (16KB)
DC000	
DE000	
DFFFF	

第5章 こんなときは

5.1 アプリケーションソフトを使用する

- メモリカード、ATA カードおよび SCSI カードに接続しているデバイスからの起動はできません。固定ディスク/フロッピーディスク/RAM ドライブなどで立ち上げた後、PC カード上のアプリケーションソフトの起動コマンドを実行してください。
- コピープロテクトなどの処置の施されたアプリケーションソフトは、メモリカードまたは、ATA カードへコピーできません。
- 各種設定の必要なアプリケーションソフトの場合は、メモリカードへコピーする前に設定を行ってください。
- PC カードを使用するアプリケーションソフトウェアのインストール、専用ドライバの登録、起動方法、環境設定などの手順については、アプリケーションソフトウェアおよび PC カードの説明書に従ってください。

次のようなときは PC カードの挿抜やレジュームを行わないでください

- メモリカード、ATA カードおよび SCSI カードに接続しているデバイスに対する読み書きやフォーマット中
- PC カードを使用するアプリケーションの実行中
- 通信中（本体標準の通信ポート含む）
- サウンドの録音／再生中

5.2 ネットワークを使用するには

- ネットワークを経由してプリンタに印刷するような場合、ネットワークの種類によってはメモリに常駐するネットワークプログラムをネットワークの終了時にメモリから削除できなくなることがあります。
このようなときは、エディタなどを使用して次のように REM コマンドを使って、CONFIG.SYS ファイルの CSS.SYS を組み込まない設定にしてください。

```
REM DEVICEHIGH=A:¥DOS¥CSS.SYS
```

ただし、この指定を追加するとプリンタを使用するアプリケーションから PC カードが使用できなくなることがあります。

5.3 NetWare/LAN マネージャを使用する

ネットワーク上で PC カードを使用する場合は、それぞれのネットワークをインストールした後 PC カードサポートソフトウェアでアップデートする必要があります。

5.3.1 NetWare v3.11J のアップデート

1. PC カードサポートソフトウェアディスクをフロッピッドドライブに挿入し、カレントドライブをそのドライブに変更します。
2. NetWare アップデートコマンド CARDNW を MS-DOS コマンドプロンプトから以下のように実行し、NetWare シェルをアップデートします。

```
CARDNW <NetWare シェルファイル名> □
```

例： NetWare のインストールディレクトリが A:¥NETWARE で、アップデートする NetWare シェルが NETX.COM、PC カードサポートソフトウェアのドライブが B: の場合。

```
B>CARDNW A:¥NETWARE¥NETX.COM □
```

例： NetWare のインストールディレクトリが A:¥NETWARE で、アップデートする NetWare シェルが EMSNETX.EXE、PC カードサポートソフトウェアのドライブが B: の場合。

```
B>CARDNW A:¥NETWARE¥EMSNETX.EXE □
```

3. 正常終了のメッセージが表示されたら、アップデート終了です。
なお、設定を有効にするためにはリセットスイッチを押し本体を再起動してください。

5.3.2 LAN マネージャ v2.0a/2.1 のアップデート

1. PC カードサポートソフトウェアディスクをフロッピッドドライブに挿入し、カレントドライブをそのドライブに変更します。
2. LAN マネージャアップデートコマンド CARDLM を MS-DOS コマンドプロンプトから以下のように実行し、LAN マネージャをアップデートします。

```
CARDLM <LAN マネージャのインストール先パス名> □
```

例： LAN マネージャのインストールディレクトリが A:¥LANMAN.DOS、PC カードサポートソフトウェアのドライブが B: の場合。

```
B>CARDLM A:¥LANMAN.DOS □
```

3. 正常終了のメッセージが表示されたら、アップデート終了です。
なお、設定を有効にするためにはリセットスイッチを押し本体を再起動してください。

5.4 拡張バス製品を使用する

拡張バス製品を使用する場合、PC カードが使用する資源（メモリ、割り込み番号など）と重複しないように設定する必要があります。設定は以下の手順で行います。

1. 使用する拡張バス製品がどのような資源を使用しているか確認する。
メモリ、INT 番号、I/O ポート
(ボードの設定およびマニュアルより確認する)
2. PC カードが使用できる資源を設定する。
PC カードが使用できる資源から、拡張バス製品が使用する資源を除外する。
(「4.5 PC カードが使用できる資源を設定する」を参照してください)



INT と IRQ

どちらも割り込みに関する呼び方ですが、拡張バス製品は INT で、PC カードサポートソフトウェアでは IRQ で割り込み番号を管理しています。従って、使用できる資源を設定するときは、IRQ の番号を知る必要があります。IRQ と INT の対応は付録 E を参照してください。

5.5 カードライブラリのレコードをコピーする

カードライブラリには、いろいろな PC カードを設定するための複数のレコードが含まれています。これらのレコードは必要に応じて、別のカードライブラリにコピーすることができます。例えば、以下のような場合、カードライブラリのコピーが必要になります。

- 新規のカードライブラリを作成し、既存のカードライブラリから自分の必要なレコードのみをコピーして使用する。
- PC カードに添付されたカードライブラリのレコードを自分のカードライブラリにコピーして使用する。

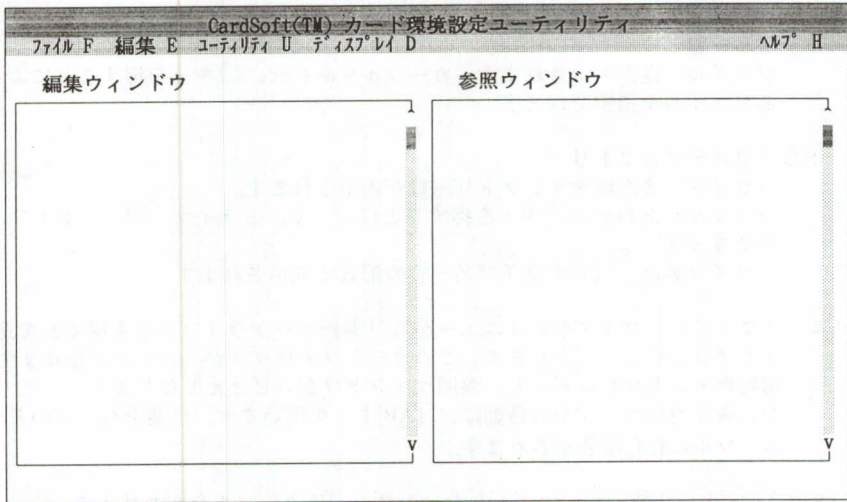
カードライブラリのレコードをコピーするには、カード環境設定ユーティリティ (CONFIG.EXE) を使用します。



カード環境設定ユーティリティの基本操作については付録 B を参照してください。

1. カード環境設定ユーティリティを起動します。初期画面を確認後 キーを押すと以下の画面が表示されます。

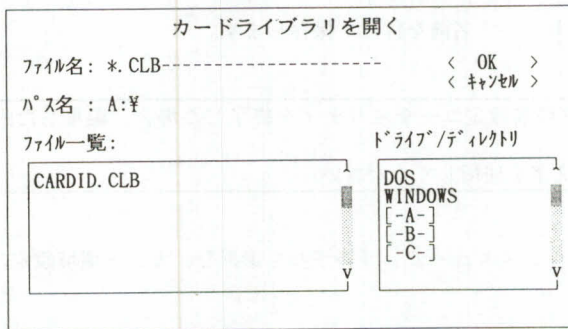
CONFIG



2. 「ファイル」プルダウンメニューから「新規」または「開く」を選択します。このカードライブラリがコピー先となります。

「新規」 ... カードライブラリを新規に作成しコピーする場合
「開く」 ... 既存のカードライブラリにコピーする場合

3. 「開く」を選択した場合、オープンするファイルを指定します。



(キーを押すと、項目間の移動ができます)

ファイル名

読み込むファイル名を指定します。

ワイルドカードを指定すると、ファイル一覧に検索結果が表示されます。

パス名

パス名が表示されます。

ファイル一覧

ファイル一覧が表示されます。カーソルをあわせ、キーを押すことによってオープンするファイルを指定できます。

ドライブ／ディレクトリ

ドライブ、またはディレクトリ一覧が表示されます。

カーソルをあわせ、キーを押すことによって、ドライブ、ディレクトリを変更することができます。

ドライブ名は、[ードライブ名ー]の形式で表示されます。

- 「ファイル」プルダウンメニューから「参照カードライブラリを開く」を選択し、カードライブラリをオープンします。このカードライブラリがコピー元になります。編集ウィンドウがコピー先、参照ウィンドウがコピー元となります。左右画面間のカーソルの移動は、**[TAB]**キーを用います。作業を行っているウィンドウのカーソルは青色で表示されます。
- キーを使って、コピーしたいレコードにカーソルをあわせませす。
- 「編集」プルダウンメニューから「レコードのコピー」を選択します。レコードがコピーされ、画面左側にも同じレコードが表示されます。
- コピー作業が終了したら、「ファイル」プルダウンメニューから「保存」または「名前を付けて保存」を選択します。

「保存」 … 同じファイル名で上書き保存されます。もし、ファイル名がまだ付けられていない場合は、「名前を付けて保存」の画面になります。

「名前を付けて保存」 … 名前を付けて保存します。

注意



保存を実行せずにカード環境設定ユーティリティを終了した場合、編集した内容はすべて消去されます。

ファイル名には、ANK 文字を使用してください。

- 「ファイル」プルダウンメニューより「終了」を選択し、カード環境設定ユーティリティを終了します。

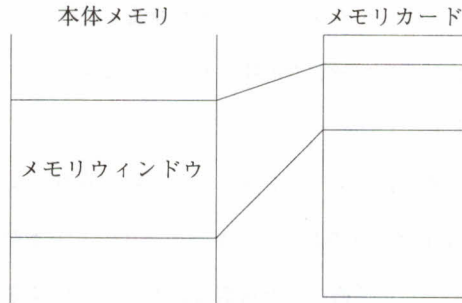
5.6 カードライブラリのレコードを削除する

1. カードライブラリを開きます。
(オープンの方法は、「5.5 カードライブラリのレコードをコピーする」を参照してください)
2. 編集ウィンドウ内で削除したいレコードにカーソルをあわせませす。
3. 「編集」プルダウンメニューから「レコードの削除」を選択します。

選択したレコードが削除されます。
4. 削除作業が終了したら、「ファイル」プルダウンメニューから「保存」または「名前を付けて保存」を選択します。
(保存方法は、「5.5 カードライブラリのレコードをコピーする」を参照してください)
5. 「ファイル」プルダウンメニューより「終了」を選択し、カード環境設定ユーティリティを終了します。

5.7 PC カードが使用するメモリウィンドウを拡張する

PC カードの中には、カードにアクセスするためにメモリウィンドウを必要とするものがあります。PC カードサポートソフトウェアをインストールした直後は、全体で 8K バイトをメモリウィンドウとして使用することができるように設定してあります。



メモリカードの一部をメモリウィンドウに割り当てアクセスする。

しかし、メモリウィンドウは PC カードの種類により必要とするサイズが大きく異なることがあり、複数枚の PC カードを使用できる環境では、標準の 8K バイトでは不足になることがあります。

そのようなときは以下のような手順でメモリウィンドウを拡張してください。

1. EMM386.EXE を使用し、かつ UMB 機能を利用している場合は以下の指定を行います。

`/E=D400-D7FF` (16K バイト増やす)

2. PC カードが使用できる資源を設定し直します。
(「4.5 PC カードが使用できる資源を設定する」を参照してください)

5.7.1 資源情報ファイル(CSALLOC.INI)を初期状態に戻す

1. すべての PC カードを抜いて、資源確保ユーティリティを起動します。

CSALLOC

2. 確認の画面がでたらどれかキーを押します。

資源情報ファイル(CSALLOC.INI)が新規に作成されます。

注意

資源情報ファイルは起動した CSALLOC.EXE と同じディレクトリに新規に作成されます。そのディレクトリに CSALLOC.INI があった場合、古い CSALLOC.INI は消去されます。

付録 A PC カードサポートソフトウェア

デバイスドライバ

ソケットサービス (SSDRV.SYS)

ソケットサービスは、上位のソフトウェア（カードサービス）からの要求に対して、アダプタ（PC カード制御用コントローラ）を直接制御します。例えば、ソケット（PC カードスロット）の設定や電圧制御、PC カードが使用するメモリの割り当てなどを行います。

カードサービス (CS.EXE/CSPNP.EXE)

カードサービスは、システム資源の競合を管理し、アダプタとカードの資源を管理します。

PC カードドライバ (CSS.SYS)

このドライバは、一部のアプリケーションで PC カードサポートソフトウェアが動作しなくなる不具合を正常に動作させるためのドライバです。

カード自動設定ドライバ (CARDID.EXE)

このドライバは、PC カードの挿抜を検出し、カードの種別を挿入と同時に自動的に判断して、カードとソケット/アダプタの設定を行います。

メモリカードドライバ (MCDRV.SYS)

メモリカードドライバは、フラッシュメモリカード、SRAM カード、ROM カードなどメモリカードを使用するために必要なドライバです。このドライバを使用することにより、スロットに挿入したメモリカードがドライブの一つとして認識されます。

ATA カードドライバ (HDCARD.SYS)

ATA カードドライバは、JEIDA/PCMCIA 仕様に準拠した ATA カードを使用するために必要なドライバです。このドライバにより、ATA カードを通常の固定ディスクとほぼ同様に扱うことができます。

Windows 対応ドライバ (VCD.386、SSVRDD.386、COMBUFF.386、COMM.DRV、SSWINCS.DLL)

これらのドライバは、Windows 上で通信デバイスを使用するために必要です。また、Windows プログラムからカードサービスにアクセスする機能を提供します。

注意

PC-9821Ne、PC-9801NX/C、NS/A、NL/R 用ドライバは使用できません。

ユーティリティ

インストーラ (INSTCARD.EXE、WINSTCRD.EXE)

本製品を簡単にインストールするために、2本のインストールプログラムが用意されています。INSTCARD.EXEはMS-DOS上で動作するドライバおよびユーティリティを、WINSTCRD.EXEはWindows上で動作するドライバ、ユーティリティをインストールすることができます。

カード環境自動切り換えユーティリティ (CARDCFG.EXE/WCARDCFG.EXE)

このユーティリティを利用することによって以下のことができます。

- プラグ&プレイサポートソフトウェアの設定/解除の状態を自動認識してPCカードサポートソフトウェアのドライバを正しく設定します。
- PCカードサポートソフトウェアの登録/削除を行います。

カード環境設定ユーティリティ (CONFIG.EXE)

このユーティリティを利用することによって、以下のことが実行できます。

- カード種別ごとの標準設定を作成する
- PCカードが使用できる資源を設定する
- カードライブラリのレコードをコピーする

資源確保ユーティリティ (CSALLOC.EXE)

このユーティリティは、以下の2つの役割を持っています。

- コマンドとして実行することによって、本体で利用できる資源（メモリ、割り込み番号（IRQ）、I/Oポート）の情報をCSALLOC.INIファイルに書き込みます。
- デバイスドライバとしてCONFIG.SYSに組み込むことによって、起動時にCSALLOC.INIファイルを読み込み、カードサービスに資源情報を伝えます。

カード情報表示/設定ユーティリティ (CARDINFO.EXE、CARDVIEW.EXE)

スロットに挿入されているPCカードの情報を表示します。表示される情報には、カードの挿抜状態、カード種別などがあります。MS-DOS上ではCARDINFO.EXEを、Windows上ではCARDVIEW.EXEを使用します。

また、CARDVIEW.EXEでは、イベント通知(カード挿抜など)に対する設定なども行うことができます。

メモリカードユーティリティ (MCUTL.EXE、CARDTOOL.EXE)

メモリカードの初期化、コピーを行うために必要なユーティリティです。MS-DOS上では、MCUTL.EXEを、Windows上ではCARDTOOL.EXEを使用します。

ATAカードユーティリティ (PFDISK.EXE、HDCARDF.EXE)

ATAカードを初期化するために必要なユーティリティです。ATAカードはMS-DOSのフォーマットコマンド(FORMAT.EXE)では初期化できません。

付録 B カード環境設定ユーティリティ (CONFIG.EXE)の基本操作

カード環境設定ユーティリティは、キーボードおよびマウスにより操作が可能です。
ここでは、本ユーティリティの基本操作について説明します。

- メニューバーから選択する
- プルダウンメニューから選択する
- コマンドを選択する
- 入力した画面を決定する
- 入力した画面を取り消す
- ヘルプを表示する
- 項目間を移動する
- 項目の中から1つを選択する
- 項目の有効/無効を設定する
- リストボックスから選択する
- 画面モードを変更する
- カード環境設定ユーティリティを終了する



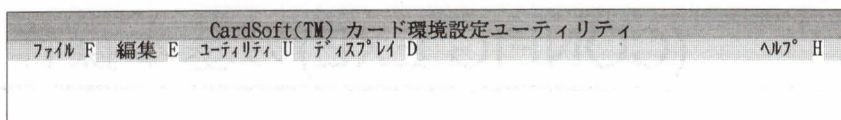
マウスで操作を行う場合、カード環境設定ユーティリティを起動する前にマウスドライバを起動しておく必要があります。

コマンドプロンプトからマウスドライバを起動します。

MOUSE

なお、マウスドライバは MOUSE.COM のみに対応しています。

- メニューバーから選択する



キーボード：

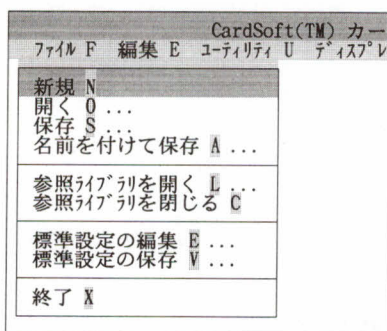
[GRPH]を押しながら、反転表示されたアルファベットを入力します。

例えば、「ファイル」というメニューを選びたい場合は、**[GRPH]**を押しながら F キーを押します。

マウス：

メニューバーの選択したい項目名にマウスカーソルをあわせクリックします。

- プルダウンメニューから選択する



キーボード：

反転表示されたアルファベット（ショートカットキーといいます）を入力するか、**[↑]**

[↓]キーでカーソルをあわせ**[Enter]**キーを押します。

マウス：

プルダウンメニューの選択したい項目名にマウスカーソルをあわせクリックします。

- コマンドを選択する

標準設定の編集	
<NEC modem:	NECモデムカードの設定>
<Modem	: モデムカードの設定>
<NetWork	: ネットワークカードの設定>
<ATA	: ATAカードの設定>

キーボード:

[GRPH]を押しながら、反転表示されたアルファベットを入力します。

例えば、「ATAカードの設定」というコマンドを選びたい場合は、**[GRPH]**を押しながらAキーを押します。

マウス:

選択したい項目名にマウスカーソルをあわせクリックします。

- 入力した画面を決定する

キーボード:

画面中のすべての入力が終了したら、**[Enter]**キーを押します。

マウス:

その画面にある<OK>をクリックします。

- 入力した画面を取り消す

キーボード:

画面中のすべての入力を取り消す場合、**[ESC]**を押します。

マウス:

その画面にある<キャンセル>をクリックします。

- ヘルプを表示する

キーボード:

[F1]キーまたは**[HELP]**キーを押します。

ヘルプ画面を終了するには、**[Enter]**キーを押します。

マウス：

その画面にある<ヘルプ>をクリックします。
ヘルプ画面を終了するには、<OK>をクリックします。

● 項目間を移動する

NECモデムカードの設定	
COMポートの順番	COMポートの定義
1 番目 : ポート 2	ポート 2: 00B0, IRQ 03
2 番目 : ポート 3	ポート 3: 00B0, IRQ 03

キーボード：

[TAB] キーを押すことにより次の入力項目へ、**[SHIFT]** キーを押しながら **[TAB]** キーを押すことにより 1 つ前の入力項目へ移動することができます。

マウス：

入力したい項目の入力領域にマウスカーソルをあわせクリックします。
また、選択やチェックをつける項目に移動するには、項目名をクリックします。

● 項目の中から 1 つを選択する

COMポートの割り当て順 (*) 挿入した順番 () スロットの順番

キーボード：

選択したい項目にカーソルをあわせ、スペースキーを押します。
選択した項目は (*) のように表示されます。

マウス：

選択したい項目名にマウスカーソルをあわせクリックします。

● 項目の有効/無効を設定する

[]	設定失敗のまま継続します
[]	DOS上でイベントが起きた際にビープ音を鳴らす
[X]	Windows上でイベントが起きた際にビープ音を鳴らす

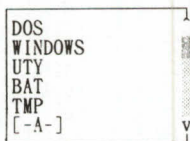
キーボード：

有効/無効を設定したい項目にカーソルをあわせ、スペースキーを押します。
スペースキーを押すたびに有効/無効が切り替わり、設定が有効な場合は **[X]** と表示され、無効な場合は **[]** のように表示されます。

マウス：

選択したい項目名にマウスカーソルをあわせクリックします。

- リストボックスから選択する



キーボード：

↑ ↓ キーによって選択したい項目にカーソルをあわせ □ キーを押します。

枠に表示しきれない項目は、スクロールすると表示されます。

マウス：

選択したい項目にマウスカーソルをあわせダブルクリック（すばやく2回クリック）します。

枠に表示されていない項目を選択したい場合、枠の右側にあるスクロールバーをクリックして項目を表示させてから選択します。

- 画面モードを切り替える

メニューバーから「ディスプレイ」を選択します。

プルダウンメニューから、以下の画面モードを選択できます。選択された画面モードの項目名には「●」が表示されます。

- カラー : 画面をカラーで表示します
- モノクロ : 画面を白黒で表示します
- LCD : LCD 画面で見やすい色で表示します

- カード環境設定ユーティリティを終了する

「ファイル」メニューバーから「終了」を選択します。

付録 C PC カードサポートソフトウェア デバイスドライバのパラメータ

SSDRV.SYS

書式 SSDRV.SYS [/EMS=011]

パラメータ

/EMS 0: コンベンショナルメモリに常駐します。
 1: EMS メモリに常駐部の一部を格納します。
 パラメータを指定しない場合の既定値です。

CS.EXE

書式 CS.EXE [/EMS=011] [/IRQ=315161A1C]

パラメータ

/EMS 0: コンベンショナルメモリに常駐します。
 1: EMS メモリに常駐部の一部を格納します。
 パラメータを指定しない場合の既定値です。

/IRQ PC カードの状態に変化（挿抜など）が起こったときに使用される割り込み
 番号を指定します。IRQ10, 12 はそれぞれ A, C と記述します。
 パラメータを指定しない場合、IRQ=6 となります。

CSPNP.EXE

書式 CSPNP.EXE [/EMS=011]

パラメータ

/EMS 0: コンベンショナルメモリに常駐します。
 1: EMS メモリに常駐部の一部を格納します。
 パラメータを指定しない場合の既定値です。

CSS.SYS

書式 CSS.SYS

パラメータ なし

CARDID.EXE

書式 CARDID.EXE [<パス名>CARDID.INI]

パラメータ

<パス名> CARDID.INI のパス名を指定します。
指定を省略した場合、CARDID.EXE と同じディレクトリにある
CARDID.INI が使用されます。

CARDID.INI ファイル中の指定

書式 [COMMON]セクションに UseEMS=[YES/NO]
[Libraries]セクションに CardLib=<パス名> ライブラリファイル名

パラメータ

UseEMS YES: EMS メモリに常駐部の一部を格納します。
NO: コンベンショナルメモリに常駐します。
<パス名> 使用するライブラリのパス名を指定します。

CSALLOC.EXE

書式 CSALLOC.EXE [<パス名>CSALLOC.INI]

パラメータ

<パス名> CSALLOC.INI のパス名を指定します。
指定を省略した場合、CSALLOC.EXE と同じディレクトリにある
CSALLOC.INI が使用されます。

MCDRV.SYS

書式 MCDRV.SYS [/EMS=0|1] [/D=n]

パラメータ

/EMS 0: コンベンショナルメモリに常駐します。
1: EMS メモリに常駐部の一部を格納します。
パラメータを指定しない場合の既定値です。
/D n: ドライブ数 (1~4) を指定します。
既定値は 2 です。

HDCARD.SYS

書式 HDCARD.SYS [/EMS=0 | 1] [/D=n]

パラメータ

- /EMS 0: コンベンショナルメモリに常駐します。
 1: EMS メモリに常駐部の一部を格納します。
 パラメータを指定しない場合の既定値です。
- /D n: ドライブ数 (1~4) を指定します。
 既定値は 2 です。

付録 D PC カードサポートソフトウェア ユーティリティのスイッチ

CONFIG.EXE

書式 CONFIG.EXE [/DM/DL]

スイッチ

/DM モノクロ表示で画面を表示します。
/DL LCD 表示で画面に表示します。
何も指定しない場合は、カラーで表示されます。
/? ヘルプを表示します。

CSALLOC.EXE

書式 CSALLOC.EXE [/D] [/?]

スイッチ

/D 動作環境および PC カード用資源の表示も行います。
/? ヘルプを表示します。

CARDINFO.EXE

書式 CARDINFO.EXE [/C] [/OFF[:n]] [/ON[:n]] [/V] [/?]

スイッチ

/C カードサービスの情報を表示します。
/V スロットの設定情報を表示します。
/? ヘルプを表示します。

PFDISK.EXE

書式 PFDISK [<D:>] [/?]

スイッチ

<D:> ATA カードのドライブ名を指定します。
/? ヘルプを表示します。

HDCARDF.EXE

書式 HDCARDF [<D:>] [/?]

スイッチ

<D:> ATA カードのドライブ名を指定します。
/? ヘルプを表示します。

付録 E IRQ、INT 対応表

以下に IRQ、INT 対応表を示します。

IRQ	INT
3	0
5	1
6	2
9	3
10	41
11	42
12	5
13	6

付録 F Windows 上でのモデムカード 使用について

ここでは、Windows 上でモデムカードを使用するときの注意事項について説明します。

1. SYSTEM.INI ファイルの変更

PC カードサポートソフトウェアでは、Windows 上でモデムなど通信用のカードを使用できるようにするため、SYSTEM.INI ファイルに独自のドライバなどを追加します。その変更内容は以下の通りとなっています。何らかの理由で、標準の設定に戻したい場合は、メモ帳などのエディタを用いて、SYSTEM.INI を修正してください。

インストール前

[386Enh]セクション

device=*vcd

device=*combuff

インストール後

[386Enh]セクション

device=A:¥WINDOWS¥SYSTEM¥ssvrdd.386

device=A:¥WINDOWS¥SYSTEM¥vcd.386

device=A:¥WINDOWS¥SYSTEM¥combuff.386

;evice=*vcd

;evice=*combuff

※上記のディレクトリ名(¥WINDOWS)は、既定値でインストールを行った場合です。

※WINDOWS¥SYSTEM ディレクトリにある comm.driv は comm.old にファイル名が変更され新しい comm.driv がインストールされます。

※ご使用のシステムによってインストール前に combuff の記述がない場合があります。

2. 他社製モデムカードを使用する場合

- 専用のドライバが必要となる場合があります。詳しくは、モデムカードに添付のマニュアルを参照してください。
- コントロールパネルでシリアルポートの設定変更はできません。
- アプリケーションや Windows に添付のターミナルでシリアルポートを認識できない場合があります。その際は、WIN.INI ファイルの[ports]セクションにメモ帳などのエディタで設定を追加してください。以下は、COM4 ポートを追加する場合の記述例です。

[port]セクション

COM1:=9600, n, 8, 1, x

COM2:=9600, n, 8, 1, x

COM3:=9600, n, 8, 1, x

COM4:=9600, n, 8, 1, x ← この行を追加

- モデムカードをプリンタの出力に使用する場合は、エディタで設定を変更してください。

記述説明

書式	ポート名：=通信速度, パリティの設定, データ長, ストップビット長 [, フロー制御]
ポート名	COMX (X はシリアルポート番号)
通信速度	通信速度を指定します。(75, 150, 300, 600, 1200, 2400, 4800, 9600, 19200 のいずれか)。ただし、最小/最大の通信速度は使用するモデムカードによります。
データ長	データ長をビット単位で指定します。(5, 6, 7, 8 のいずれか)
ストップビット長	ストップビット長をビット単位で指定します。(1, 1.5, 2 のいずれか)
フロー制御	x または p を指定します。 x : XON/OFF 制御を行う p : ハードウェアフロー制御を行う

付録 G B4680 インタフェースカード T (PC-9801N-J02)ご使用上の注意

本機に添付された「PC カードサポートソフトウェアディスク」には、B4680 インタフェースカード T (PC-9801N-J02、以下カード T と略) を本機で使用するためのドライバが含まれています。

本機でカード T を使用する場合、カード T 添付のドライバでは正常に動作しない場合があります。カード T 添付の「ドライバディスク」内の README ファイルに特に指示がない場合、「PC カードサポートソフトウェアディスク」をカード T の「ドライバディスク」として使用してください。

カード T のセットアップ方法はカード T 添付のユーザーズマニュアルを参照して行います。このとき、カード T マニュアルに示されているカード T 製品添付「ドライバディスク」の記述は、「PC カードサポートソフトウェアディスク」に読み換えてください。

セットアップ可能なネットワーク製品は次のとおりです。バージョンなどの詳細についてはカード T のマニュアルを参照してください。

- NetWare
- LAN マネージャ
- TCP/IP 通信制御ドライバ

索引

-
- A**
- ATAカード 2, 15, 30
ATAカードドライバ (HDCARD.SYS) 30, 45
ATAカードユーティリティ
(PFDISK.EXE,HDCARDF.EXE) 15, 46
-
- C**
- CARDID.CLB (カードライブラリファイル) 3
CARDID.EXE (カード自動設定ドライバ)..... 3, 45
CARDID.INI (標準設定ファイル) 3
CARDINFO.EXE
(カード情報表示/設定ユーティリティ)..... 17, 46
CARDTOOL.EXE
(メモリカードユーティリティ) 11, 14, 46
CARDVIEW.EXE
(カード情報表示/設定ユーティリティ)..... 18, 46
アイコン化 20
オプション 25
終了 20
設定 21
ヘルプ 25
CDCOMP.SYS (従来互換ドライバ) 45
CLBファイル 3
CONFIG.EXE (カード環境設定
ユーティリティ) 3, 26, 32, 41, 46, 47
CS.EXE (カードサービス) 3, 45
CSALLOC.EXE (資源確保ユーティリティ)..... 3, 46
CSALLOC.INI (資源情報ファイル) 3
-
- H**
- HDCARD.SYS (ATAカードドライバ) 30, 45
HDCARDF.EXE
(ATAカードユーティリティ) 15, 46
-
- I**
- INIファイル 3
INSTCARD.EXE (インストーラ) 5, 46
INT 40, 57
IRQ 40, 57
I/Oカード 2
設定 16
I/O変換機能 20
-
- L**
- LANマネージャを使用する 39
-
- M**
- MCDRV.SYS (メモリカードドライバ) 45
MCUTL.EXE
(メモリカードユーティリティ) 10, 13, 46
-
- N**
- NECモデムカード 28
NetWareを使用する 39
-
- P**
- PCカード 1
種類 1
サポートソフトウェア デバイスドライバ 45, 52
サポートソフトウェア ユーティリティ 46, 55
サポートソフトウェアのインストール 4, 9
情報の表示 17
使用できる資源の設定 32
PFDISK.EXE (ATAカードユーティリティ) 15, 46
-
- S**
- SCSIボード 16, 36
SRAMカード 1
フォーマット 10, 11
SSDRV.SYS (ソケットサービス) 45
-
- V**
- VCD.386,SSVRDD.386,COMBUFF.386,
COMM.DRV,SSWINCS.DLL
(Windows対応ドライバ) 45, 58
-
- W**
- Windows対応ドライバ
(VCD.386,SSVRDD.386,COMBUFF.386,
COMM.DRV,SSWINCS.DLL) 45, 58
WINSTCRD.EXE (インストーラ) 6, 46

あ

アプリケーションソフトを使用する	38
インストーラ (INSTCARD.EXE,WINSTCRD.EXE)	5, 7, 46

か

カード環境設定ユーティリティ (CONFIG.EXE)	3, 26, 32, 41, 46, 47
カードサービス (CS.EXE)	45
カード自動設定ドライバ (CARDID.EXE)	3, 45
カード情報表示/設定ユーティリティ (CARDINFO.EXE,CARDVIEW.EXE)	17, 18, 46
カードライブラリのレコード	3, 40
カードライブラリファイル (CARDID.CLB)	3
拡張バス製品を使用する	40

さ

資源確保ユーティリティ (CSALLOC.EXE)	3, 46
資源情報ファイル (CSALLOC.INI)	3
資源の予約、共有	35
従来互換ドライバ (CDCOMP.SYS)	45
スロットの順番	22, 28
設定の競合	24
挿入した順番	22, 28
ソケットサービス (SSDRV.SYS)	45

た

通信音	21
-----------	----

な

ネットワークカード	22, 29
ネットワークを使用する	38
認識できないカード	24

は

標準設定ファイル (CARDID.INI)	3
フラッシュメモリカード	1
コピー	12

ま

メモリカード	1
(メモリカード) フォーマット	10, 11
メモリカードドライバ (MCDRV.SYS)	45
メモリカードユーティリティ (MCUTL.EXE, CARDTOOL.EXE)	10, 11, 13, 14, 46
メモリウィンドウの拡張	37, 44
モデムカード	21, 29

NEC

